

永貞佐後佐尹に誘引せられ予も南山に
光社地を擇ね旧地へ遷うつ座を移うつす（近年此地に宇を告立し念仏の座あり）と云く佛
舎を經營する事を忌憚おそる事と云ふ事
の才いふ知るものなり東鑑十八に書曰爲
尼御臺所御計仰鶴岡別當阿闍梨尊曉
被停止宮寺中塔婆之宮作此塔建立始
有火災當宮以下鎌倉中數町焼亡其後
爲再興被曳其地之處不經幾日數金吾
將軍御病惱仍不吉之由有其沙汰云々
刊の當り人の文を味ふ（さ事）

一鷹尾山

上杉重勝南山を没収せられと云ふ今は
堂社僧坊一字もなく征伐する所のこされ
已ぬ地ハ山本迄の古田の下に名は残る斗
僧坊數多ありけるや蕨尾村の元統ハ鷹
尾之子坊の末なりといふ事七條の常陸之
戒人の許する名草若大巨碧丸の事を以て
け山の里然と一飛鷹をえ海に傳と一大臣
屋敷といふ所被傳にあり極と云ふ所あり
杜撰の説よりして云用ゝに足るに但當ぬ